

平成 26 年度 高知県安全安心まちづくり推進会議総会

1 開催日時 平成 27 年 2 月 26 日（木） 午前 10 時～午後 0 時 23 分

2 開催場所 高知会館 2 階 白鳳の間

3 会次第

- 10：00 開会
- 10：01 開会のことば
- 10：05 表彰
- 10：15 受賞者代表謝辞
- 10：18 会長あいさつ
- 10：22 新規構成員の紹介
- 10：25 総会議事
- 10：55 安全安心まちづくり活動事例発表
- 11：18 講演
- 12：18 安全安心まちづくり宣言
- 12：20 閉会のことば
- 12：23 閉会

4 議事録

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

皆様、大変お待たせいたしました。ただいまから、平成 26 年度高知県安全安心まちづくり推進会議総会を開催いたします。

私は、高知県警察本部生活安全企画課、地域安全対策推進室の大崎と申します。本日の司会・進行役を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。

本日の総会につきましては、お手元の総会資料 1 ページの会次第に従いまして進めさせていただきます。

それでは、総会の開会に当たりまして、高知県安全安心まちづくり推進会議の田村壮児副会長から『開会のことば』をお願いします。

◎高知県安全安心まちづくり推進会議 田村副会長（高知県教育長）

皆さん、おはようございます。紹介のございました、高知県安全安心まちづくり推進会議副会長の田村でございます。今日は皆様大変お忙しい中、また、お足元も悪い中、この

ように大勢のご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の会議でございますけれども、事業報告、事業計画といった議事のほか、表彰、講演、事例発表、また意見交換、まちづくり宣言など、大変盛りだくさんの内容になっております。

構成メンバーが年に一度でございますけれども、一堂に会する大変貴重な機会でございますので、是非積極的に情報交換を頂きまして、今後の活動の充実につながりますようによろしくお願いいたしますと思います。

それでは、ただいまから平成 26 年度高知県安全安心まちづくり推進会議総会を開催いたします。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

続きまして、『高知県安全安心まちづくり功労団体等表彰』並びに『高知県犯罪のない安全安心まちづくりポスター入選作の表彰』を行います。

初めに、平成 26 年度『高知県安全安心まちづくり功労団体等表彰』を行います。会長は壇上をお願いいたします。

この表彰は、犯罪のない安全で安心なまちづくりにおいて、優れた活動を行われました地域活動団体、事業者の方々に対しまして、推進会議会長より行われるものです。

ご功績につきましては、お手元でございます、水色の「安全安心まちづくり功労団体等名簿」をごらんください。

それでは、お名前を読み上げますので、受賞されました方は、順次、前にお進みください。

まず、団体の部の表彰でございます。

「日章地区タウンポリス」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「日章地区タウンポリス」様。

あなた方は、犯罪のない安全安心な社会の実現のため、地域における防犯活動に尽力されましたので、その功績をたたえ、表彰します。平成 27 年 2 月 26 日、高知県安全安心まちづくり推進会議会長、高知県知事、尾崎正直。誠に日頃よりお疲れさまでございます。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

「いっく・あぞうの守り隊」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「いっく・あぞうの守り隊」様。以下同文でございます。日頃より大変お疲れさまでございます。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

「大豊町安全推進町民会議」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「大豊町安全推進町民会議」様。以下同文でございます。日頃より大変お疲れさまでございます。失礼します。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

「蓮池パトロール隊」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「蓮池パトロール隊」様。以下同文でございます。日頃より大変お疲れさまでございます。失礼します。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

続きまして、個人の部の表彰でございます。

「井上安平（いのうえ やすへい）」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「井上安平（いのうえ やすへい）」様。あなたは、犯罪のない安全安心な社会の実現のため、地域における防犯活動に尽力されましたので、その功績をたたえ、表彰します。平成27年2月26日、高知県安全安心まちづくり推進会議会長、高知県知事、尾崎正直。どうも日頃よりお疲れさまでございます。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

「高尾義継（たかお よしつぐ）」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「高尾義継（たかお よしつぐ）」様。以下同文でございます。日頃より大変お疲れさまでございます。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

「高橋光明（たかはし みつあき）」様。

◎会長（高知県 尾崎知事）

表彰状。「高橋光明（たかはし みつあき）」様。以下同文でございます。日頃より大変お疲れさまでございます。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

なお、個人の部で表彰されました、「嶋本あけみ（しまもと あけみ）」様、「西山勝之（にしやま かつゆき）」様は、本日、所用のためご欠席されておりますので、後日、表彰状を伝達させていただきます。

引き続き、平成 26 年度『高知県犯罪のない安全安心まちづくりポスター』優秀作品の表彰を行います。

お手元の総会資料 2 ページをごらんください。これは、犯罪のない安全安心まちづくりを広く県民の皆様に呼び掛けるため、昨年、ポスターの募集を行ったところ、111 点もの応募があり、最優秀賞・優秀賞各 2 点、佳作 6 点が選ばれました。今回、受賞された作品は、会場の後方と役員席の後方にそれぞれ掲示していますポスターに、また、お手元にお配りしましたポケットティッシュの図案に活用させていただいています。

それでは、お名前をお呼びしますので、受賞されました方は前にお進みください。

まず、小学生の部の表彰でございます。

最優秀賞。香南市立野市東小学校 2 年、「川野蒼依（かわの あおい）」さん。

◎会長（高知県 尾崎知事）

賞状。最優秀賞。小学生の部。香南市立野市東小学校、「川野蒼依（かわの あおい）」様。あなたの作品は、平成 26 年度高知県『犯罪のない安全安心まちづくりポスター』審査において、頭書の成績を収めましたので、これを賞します。平成 27 年 2 月 26 日、高知県安全安心まちづくり推進会議会長、高知県知事、尾崎正直。本当におめでとうございます。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

優秀賞。香南市立野市東小学校 5 年。「酒井愛望（さかい まなみ）」さん。

◎会長（高知県 尾崎知事）

賞状。優秀賞。小学生の部。香南市立野市東小学校、「酒井愛望（さかい まなみ）」様。以下同文でございます。良いポスターありがとうございます。はい。おめでとうございます。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

続きまして、中高生の部の表彰でございます。

最優秀賞。高知県立伊野商業高等学校 3 年、「橋田あゆみ（はしだ あゆみ）」さん。

◎会長（高知県 尾崎知事）

賞状。最優秀賞。中学・高校生の部。高知県立伊野商業高等学校、「橋田あゆみ（はしだ あゆみ）」様。以下同文でございます。すばらしいポスター本当にどうもありがとうございます。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

優秀賞。高知大学教育学部附属中学校2年、「藤井彩祐美（ふじい あゆみ）」さん。

◎会長（高知県 尾崎知事）

賞状。優秀賞。中学・高校生の部。高知大学教育学部附属中学校、「藤井彩祐美（ふじい あゆみ）」様。以下同文でございます。すばらしいポスターありがとうございます。はい。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

なお、ポスターの優秀作品には、先ほど受賞されました方々のほか、佳作としまして、小学生の部では、南国市立大篠小学校の「大野姫楓（おおの ひめか）」さん。同じく大篠小学校の「永森泉紀（ながもり みずき）」さん。香南市立香我美小学校の「近森輝瑠（ちかもり ひかる）」さん。

中高生の部では、高知大学教育学部附属中学校の「籠見日南子（かごみ ひなこ）」さん。高知県立伊野商業高等学校の「三宮華佳（さんのみや はるか）」さん。同じく伊野商業高等学校の「武智成美（たけち なるみ）」さんが選ばれております。佳作の6名様につきましては、後日、在学の学校を通じまして表彰状を伝達させていただきます。

それでは、受賞者を代表いたしまして、井上安平様からご挨拶を頂きます。

井上様と尾崎会長は、どうぞ壇上へお進みください。

受賞者の皆様は恐れ入りますが、その場でご起立をお願いします。

◎受賞者代表 井上安平

受賞者を代表いたしまして、一言御礼申し上げます。

本日は、『高知県安全安心まちづくり功労団体等表彰』及び『高知県犯罪のない安全安心まちづくりポスター入選』の表彰をいただき、ありがとうございました。私たちはこれまで安全で安心して暮らせる地域を築くため、それぞれ子どもたちへの声かけや地域でのパトロール活動などを行ってまいりました。また、取組の大切さを伝えるためのポスターを一生懸命考えて作成いたしました。今回、その取組や努力が評価され、このような榮譽に授かり、心からうれしく思います。同時に、こうした活動を続けてこられましたのも、周囲の様々な方々のご理解や支援があったからこそであり、厚く御礼を申し上げます。私たちはこの度の受賞を励みとして、それぞれは微力ではあるかもしれませんが、「自らの安全は自らが守る、地域の安全は地域が守る」との思いを強く持ち、地域の皆様と力を合わせ

て、これからも安全安心まちづくり活動を頑張っていきたいと思います。

最後になりましたが、ご参会の皆様のご健勝を祈念し、受賞の謝辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

平成 27 年 2 月 26 日、受賞者代表、井上安平。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

ありがとうございました。受賞者の皆様はどうぞご着席ください。

以上をもちまして、表彰式を終了いたします。

ここで、高知県安全安心まちづくり推進会議の尾崎会長からご挨拶を申し上げます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

どうも、皆様おはようございます。

本日は大変ご多忙の中、高知県安全安心まちづくり推進会議の総会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。皆様方からは日頃より多大なる安全安心のまちづくりのためのご貢献を頂いておるところでございまして、県知事といたしましても、心から感謝を申し上げる次第でございます。また、先ほど長年にわたるご貢献によって表彰を受けられました皆様方、本当に心から長年のご努力に敬意を表させていただきたいと思えます。そして、安全安心まちづくりに向けたすばらしいポスターを作っていたいただいた学生の皆さん、本当にどうもありがとうございます。いいポスターを作っていたいただいて本当に感謝を申し上げたいと、そのように思います。ありがとうございます。

皆様方の多大なるご尽力を頂きましたお陰をもちまして、高知県の治安情勢、比較的良い方向に向かっているのかなと、そのように思われます。刑法犯の認知件数にいたしましても、減少傾向を維持しているということでございまして、この点自体、本当にすばらしいことだと、そのように思います。

しかしながら、それぞれいろいろな場面におきまして、まだまだ努力を重ねていかなければならないと思われる点がございます。

まず第一に、特殊詐欺。この被害が全国の中でも高知県トップクラスになってしまうという、今、残念な結果となっているところでございます。高齢者の皆様方を中心といたしまして、更なる啓発活動、予防活動、これを進めていかななくてはなりません。

さらには少年の非行の問題について。本当に多くの皆様方、お取組をいただきまして、県といたしましても、「高知家の子ども見守りプラン」という形で、県警と教育委員会と知事部局、三者連携をいたしましての対応を進めてきているところでございます。少し改善傾向になってきているのかなとそういう状況ではございますけれども、まだまだ全国平均と比べますと厳しい状況に変わりはありません。さらなる努力を積み重ねていかなければならない分野だと、そのように思っております。

また、消費者の皆様方を守るための取組ということにつきましても、引き続きの努力が

必要であります。力強く消費者行政を進めていくことによりまして、様々ないわゆる詐欺的な行為から消費者の皆様を守り、安全安心な消費活動が行われるという県都づくりを目指していかななくてもならないとそのようなも考えているところでございます。

残念ながら、少子化・高齢化が進む、過疎化・高齢化が進むという中におきまして、地域地域の見守りの力というもの、特に、昔であれば地縁血縁で解決しておったようなことがなかなかそのようにはいかないという状況がだんだんだんだんと広がってきています。さらに都市部におきましてはこれに加えまして、それぞれの住居、ご家族のいわゆる孤立的な状況、こういうものも進展をしてきているわけでありまして。そういう中におきまして、安全安心なまちづくりをしていくためには、意図的にいろいろな方々で力を合わせたいろんな見守りのネットワークを作り上げていくということが大事なのだろうと。安全安心なまちづくりのための意図的な取組を共に団結をして行っていくことが大事なのだろうと、そのように思われる次第でございます。

高知県におきますこの推進会議の枠組み、これは本当に多くの関係者の皆様一堂に会する取組でありまして、非常に有意義な取組だと、そのように思う次第でありますけれども、是非、今年におきましても、皆様方とともに団結をさせていただきながら、様々なまちづくり安全安心なまちづくりのための取組を進めさせていただきたいと、そのように考えております。

本当に今日は大変ご多忙の中、皆様方おいでをいただきましてありがとうございます。この後、今年1年の活動方針につきまして、いろいろと議事通じてご議論を頂くこととなります。今日の新たな確認、新たな定め、こちらに従いまして、今年1年も安全安心なまちづくりの実現に向けて共に歩みを進めさせていただきたいと思っております。どうぞ皆さん、この1年間もよろしくお願いを申し上げます。

それでは、本当に今日はご多忙の中おいでをいただきましてありがとうございました。この後の議事、皆様方と進めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いを申し上げます。どうも。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

ありがとうございます。

なお、先ほど受賞されました皆様方は、係員が案内をいたしますので、お席をお移りください。また、役員席を設置いたしますので少しお待ちください。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

続きまして、新しく当推進会議の構成員に加わりました団体をご紹介します。昨年12月12日から新しく構成員となりました「NPO法人 高知県防犯設備協会」様です。「高知県防犯設備協会」様は平成24年に設立され、より安全で信頼できる防犯機器、防犯設備等の普及促進に取り組むことで県民の皆様の防犯意識の向上を図り、誰もが安全で安心し

て暮らせるまちづくりに貢献することを目的として活動している団体であり、県内 16 法人・個人で構成されております。各会員が通学路での見守り活動や防犯パトロールを実施されるなど、社会貢献活動に熱心に取り組まれており、今回、事務局から加入を呼び掛けましたところ快く引き受けてくださったものです。本日は、同協会の理事長であります上田瀧雄様と、理事の藤川清二郎様にお越しいただいております。

私たち推進会議の仲間として、地域における安全安心まちづくりの推進を共に進めていただきますよう、皆様よろしく申し上げます。

どうぞ、ご着席ください。高知県防犯設備協会様のご加入により、当会の構成員様は 83 団体と 3 個人の、合わせて 86 となりました。

では、ただいまから議事に移ります。議事進行につきましては、推進会議規約により議長であります尾崎会長に申し上げます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

それでは、私が議長を務めさせていただきます。限られた時間の中で精力的に議事を進めてまいりたいとそのように考えております。どうぞご協力をよろしくをお願いいたします。

それでは、着席をいたしましてお話を進めさせていただきたいと思っております。議題は、お手元の次第どおり議題 1 から議題 3 まででございます。これらの議題につきましては、2 月 4 日に開催されました推進会議幹事会において議論をされておりますので、まず事務局から説明や提案を受けながら進めてまいりたいとそのように考えております。

それでは早速、議題 1 の「平成 26 年度の取組実績」について、事務局から説明をお願いいたします。

◎事務局（高知県文化生活部 県民生活・男女共同参画課 武田）

はい。事務局の県民生活・男女共同参画課の武田と申します。よろしくお願ひいたします。座って説明させていただきます。

資料のほうは緑の資料になりますが、4 ページからとなりますのでごらんいただきたいと思います。平成 26 年度は、「地域で子どもを見守ろう」、「高齢者などを事故や事件から守ろう」、「鍵かけ運動を進めよう」、「振り込め詐欺などの被害を防ごう」の 4 つの重点テーマを設け、それぞれのテーマに沿った取組を進めてまいりました。

まずは、「地域で子どもを見守ろう」では主な取組といたしまして、そちらのほうに書いてございますが、保育所などによります防犯教室や不審者対応訓練の実施、通学路安全の日などにおける見守り活動、広報紙などによります情報発信などの活動を行ってまいりました。また、子どもの見守り活動につきましてはタウンポリス連絡協議会さん、少年警察ボランティア協会さん、あさひのこどもを守る会さん、小中学校長会さん、小中学校 PTA 联合会さん、四国コカ・コーラボトリングさんなど。また、パトロール活動といたし

ましては、商工会連合会さん、警備業協会さん、建設業協会さんが。また子どもの避難所を提供する活動といたしましては、石油業協同組合さん、旅館ホテル生活衛生同業組合さん、高知銀行さんなどによって行われてございます。次に、中段にございますが、平成26年度中の子どもが被害に遭った刑法犯罪や子どもが巻き込まれました交通事故の発生状況でございますが、いずれも件数は昨年より減少してございます。ただ、子どもに対する声かけ事案等は昨年に比べまして8件の増加となっております。声かけ事案は誘拐などに発展するおそれがある前兆事案とも言われておりまして、全体の半数近くは小学生で下校時や塾帰りの時間帯において被害に遭いやすい傾向にございます。子どもの見守り活動につきましては、全国的にも子どもの被害や交通事故の発生が続いている状況であることから、今後も登下校時の通学路など街頭における見守り活動、パトロール活動など、子どもの安全対策面で取組を推進していく必要があると考えてございます。

続きまして、5ページをごらんいただきたいと思えます。「高齢者などを事故や事件から守ろう」は、高齢者のほか、社会的に弱い立場にある方々を守る取組でございます。春・秋・年末年始と年間を通じました交通安全運動、交通事故防止キャンペーンに伴います1万人訪問活動、高齢者交通安全教室や高齢者宅訪問活動の実施などを行ってまいりました。また、高齢者宅訪問活動につきましては、高知市老人クラブ連合会さん、民生委員児童委員協議会連合会さん、社会福祉協議会さん、連合婦人会さん、交通安全母の会連合会さん、交通安全指導員協議会さんが行っております。広報啓発活動につきましても、身体障害者連合会さん、経営者協会さん、産業廃棄物協会さんなどによって行われてございます。中段にございます交通事故発生状況、刑法犯の被害状況をごらんいただきたいと思えます。26年度中の交通事故件数は件数、死者、負傷者とも前年より減少いたしました。ただ、高齢者の方が巻き込まれる交通事故の発生の率が高く、全死者のうち6割以上を占める数値となっております。また、刑法犯における高齢者・女性の被害も両者とも件数は減少傾向にございますが、振り込め詐欺などの特殊詐欺の被害に遭う高齢者は後を絶たず、また女性に対するわいせつ事件も発生していることから、これらの被害の食い止めるためにも、広報活動や見守り活動などを引き続き行っていく必要があると考えてございます。

続きまして、6ページをごらんください。「鍵かけ運動を進めよう」では、主な取組といたしまして、一戸建て住宅や共同住宅の防犯、犯罪予防を呼び掛けるため「安全安心まちづくりリーフレット」の配布、自転車盗難被害防止モデル校の施錠を呼び掛ける各種啓発活動、高齢者安全教室の実施などの活動を行ってまいりました。また、車上ねらい警戒活動につきましては、遊技業協同組合さん。街頭キャンペーン活動につきましては、「みのり会」さん、須崎高校の生徒の皆さん。自転車の無料点検は、自転車二輪車商協同組合さんなどによって行われてございます。中段にございますが、平成26年度中の刑法犯発生件数でございますが、その大半を占める窃盗犯の件数が大きく減少したため、前年より1割以上減少した状況になってございます。しかしながら、住宅を狙った侵入盗犯被害は増加しており、その多くは戸締まりをしていなかった箇所から侵入されております。また、乗

り物盗被害につきましても、鍵をかけてなかったことで被害に遭うケースが6割を超えている状況でございます。つまり、窃盗事件の被害を今後も減少させていくためには、自転車やオートバイなどのロック、住宅では外出するときの戸締まりなど、まずは確実な鍵かけをしてもらうよう引き続き呼び掛けていくことが必要であると考えてございます。

続きまして、7ページをごらんください。「振り込め詐欺などの被害を防ごう」では、主な取組といたしましては、街頭キャンペーンによる広報啓発、市町村等への見守り情報の提供、地域の集まりなどにおけます防犯寸劇の実施などの取組を行ってまいりました。この取組は県警が重点的に行っており、地域安全協会さんによって繰り返し広報をいただいております。また、広報啓発活動につきましては、商工会議所連合会さん、金融機関防犯連合会さん、NTT西日本さん、日本貸金業協会さん。シニア世代を対象といたしました携帯の安全教室の実施を、NTTドコモCS四国さん。顧客への積極的な声かけにつきましては、四国電力さんや四国銀行さん、高知銀行さんなどによって行っております。しかしながら、振り込め詐欺などの特殊詐欺の被害はここ数年急増しておりまして、平成26年度中は未遂も含めて78件の被害があり、被害総額は5億6,000万円を超えてしまいました。手口といたしましては、架空請求詐欺の被害が多く、また、被害者のうち半数以上が「レターパックや宅配便」を利用して犯人側に現金を送っている状況がございます。また、被害者の年代別を見てみますと、70代、80代で過半数を占めており、今年に入っても高齢の方が孫をかたったオレオレ詐欺や医療費の還付話でATMを操作させる還付金等詐欺の被害に遭うなどしてございます。振り込め詐欺などのように相手から現金をだまし取る犯罪はその手口が年々巧妙になっていますので、これまで以上に広報啓発や訪問活動などを通じまして被害防止を呼び掛ける対策の強化が必要と考えてございます。

最後に、「平成26年度の事業計画に基づく主な取組について」、ご説明させていただきます。8ページをごらんください。推進会議では推進会議構成員の皆様が取組実績などをホームページで公表いたしまして、広く県民の皆様を対象といたしました「安全安心まちづくりニュース」を年4回、構成員の皆様と情報共有を目的といたしました会報「安全安心まちづくりだより」を年3回発行いたしました。9月には高知警察署の署員と劇団「お年寄り見守り隊」を立ち上げ、地域の集まりの場などで特殊詐欺への注意を呼び掛ける防犯寸劇を実施してございます。10月にはイオンモール高知で、当推進会議の設立趣旨や地域での活動する団体の皆様の活動紹介、子どもの犯罪被害防止などを目的といたしました「安全安心まちづくりひろば」を開催いたしましたところ、約2,800の方が来場してくれまして、安全安心まちづくりを広報することができました。また、構成員であります高知県防犯協会、高知県警察本部と共催で防犯の分野で顕著な功績のありました方々を称します「高知県民のつどい」も開催してございます。

事務局のほうからは、以上でございます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

はい、ありがとうございました。

ただいま事務局から説明のありました「平成 26 年度の取組実績」につきまして、ご審議を願います。ご意見やご質問等ございませんでしょうか。特にございませんでしょうか。よろしいですかね。

それでは、特にご意見ございませんので、次の議題に移らせていただきたいと思います。議題 2 の「平成 27 年度の重点テーマ」について、事務局から説明をお願いいたします。

◎事務局（高知県文化生活部 県民生活・男女共同参画課 武田）

事務局より「平成 27 年度の重点テーマ」について、ご説明をさせていただきます。

資料のほうは 9 ページをごらんいただきたいと思います。先ほど、議題 1 のところで説明させていただきましたが、今年度の重点テーマ別の取組は、刑法犯の認知件数が大きく減少するなど一定の成果も見られましたが、全国的には子どもが連れ去られる事件や被害に遭う事件などが増加しており、県内でもその前兆である声かけ事案の発生が続く状況にございます。また、多くの高齢者が交通事故や詐欺被害に遭っており、さらに窃盗犯が依然大きな割合を占める状況から見ますと、今後もこれらの被害防止に重点を置いた取組の継続が必要と考えております。振り込め詐欺などの手口の総称であります特殊詐欺につきましては、近年被害が急増していることから、あらゆる機会を通じて被害の発生を防ぐための取組を行っていく必要がございます。

このため、「平成 27 年度の重点テーマ」は、「地域で子どもを見守ろう」、「高齢者などを事故や事件から守ろう」、「鍵かけ運動を進めよう」、「特殊詐欺の被害を防ごう」、以上 4 つとすることを提案したいと考えてございます。なお、4 つ目のテーマは、昨年までは振り込め詐欺などという名称を用いておりましたが、最近では特殊詐欺が一般的に用いられているため、特殊詐欺と名称を変更させていただいております。

事務局の説明は、以上でございます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

はい、ありがとうございました。

ただいま事務局から説明のありました「平成 27 年度の重点テーマ」につきまして、ご審議を願います。こちらのご意見、ご質問のある方おいでになりますでしょうか。どうぞ、はい。

◎来場者

地域の見守り活動ってのがありますね。この中で、最近、川崎市とそれから和歌山県で起こった事件ですね。子どもの被害の事件ですが、この 2 つを見てもまだはっきりは分からないと思いますが、例えば川崎の例はいわゆるどうも非行少年の集団がおるらしくて、それが先輩から若い世代にわたってつながっていると。それによって被害がどうも起

こっぴどいと思われそうですが、こういった被害は私が中学の時代もありました。非行少年が中学校に集団を成していると。そういう時代がありました。これずっと続いているんだと思うんですが、この地域の対応の仕方ですね。多分地域ではそういう非行少年等の集団を見てるんじゃないかと思うんですが、これが警察とか教育委員会とかどうつながっているのか、この辺がちょっと見えてないんですが。それと、もう一つの和歌山県の例、これもちょっと知的に問題のあるお子さんだったと思われるんですが、その子がどうも殺したらしいという話がありますが、これは子どものほうがかかったというふうにも言われてますけども、そういうのを学校教育の中できちんと指導して、そういう知的に問題のあるお子さん、大人になったお子さんとか、そういう人たちは地域におると思うんですね。それに対する子どもの対応の仕方、これも学校教育の中で何か考えていただきたい。私たちが住んでるところでもそういう行動のおかしい大人がおります。だからこれに対する地域の教育委員会とか、警察等はどうか対応するのか、その辺をちょっと知りたいと思うんです。

◎会長（高知県 尾崎知事）

ご質問ということですかね。

◎来場者

はい。

◎高知県安全安心まちづくり推進会議 國枝副会長（高知県警察本部長）

すみません。神奈川と和歌山のご指摘についてなんですけども、ご指摘のとおり、現在それぞれの両県警において捜査しております、それについて今どういうふうになってるかということについて、私のほうに今まだ情報はちょっと来ておりません。ただ、捜査の展開によりまして、当然これの情報については、こういう場を通じて、また情報を還元させていただいて、またご説明させていただいて、また防犯に生かしていきたいなと思っておりますので、またご協力お願いいたします。

それから、学校についてもご指摘でありましたけれども、現在ご案内のとおり、今、知事の強力なご指導の下、リーダーシップの下、知事部局、それから教育委員会、そして警察と「高知家の子ども見守りプラン」という形で一緒に協力して頑張っているところでございます。そういった意味でも、しっかり取り組んでいきたいと思っておりますので、また引き続きご協力よろしくようお願いいたします。

◎会長（高知県 尾崎知事）

非常に重要なご指摘だと思います。先ほど申し上げました、ちょっと私冒頭のご挨拶で申し上げましたように、今少年の非行対策ということで非常に重点を置いておるのは何か

というと、我々知事部局、すなわち福祉部局と、それと県警とあと教育委員会、この三者が連携をするということでございます。先ほど申し上げたいいわゆる非行少年の集団みたいなものがある、そういう非常に組織的に非常に問題があるような行動をしている場合というのは、それは把握したことをしっかり例えば県警とかとも情報共有をしていくと。もちろん人権にしっかり配慮していきながらということでございますが、温かい目の下にということでもありますけれども、そういう体制を取っているところでもあります、ただただ、ある意味我々だけでは目が届いていないところもたくさんあるんじゃないかと思うんです。是非、今日ご参加の皆様、団体の皆様方からこういう点は分かっているか、気付いているかというようなことがありましたら、我々に教えていただければ、またこういう三者で共有をしていくということをごささすたいと思っておりますので、よろしくお願いいいたします。

◎来場者

はい。

◎会長（高知県 尾崎知事）

はい。そのほか、ご意見、ご質問等はございますでしょうか。

それでは、平成 27 年度の重点テーマにつきましては、「地域で子どもを見守ろう」、「高齢者などを事故や事件から守ろう」、「鍵かけ運動を進めよう」、「特殊詐欺の被害を防ごう」という、この 4 点を重点テーマとして進めていくということによろしゅうございますでしょうか。

はい、ありがとうございます。それでは、この 4 点を重点テーマとして取組を進めさせていただきますことといたします。

よろしくお願いを申し上げます。

次に、議題 3 の「平成 27 年度の事業計画」について、事務局から説明をお願いいたします。

◎事務局（高知県文化生活部 県民生活・男女共同参画課 武田）

はい、資料のほうは 10 ページをごらんいただきたいと思っております。

平成 27 年度の主な取組は、県民の皆様の防犯意識を高めるため、これまでと同様に「安全安心まちづくりニュース」の発行や、推進会議の活性化と活動強化、構成員同士の情報共有を目的といたしました会報「安全安心まちづくりだより」の発行、県のホームページ・ラジオなどを活用しての情報発信などを行ってまいります。特に昨年度、特殊詐欺の被害が大幅に増加したことや高齢者の交通事故、死亡者の率が高いことを受けまして、27 年度は年間を通じて、それぞれの取組におきまして、特殊詐欺の被害防止と高齢者の交通事故防止に向けた取組を強化することといたしまして、先ほど申し上げました「安全安心まち

づくりニュース」や関係機関と協力した被害防止キャンペーンの実施など、あらゆる機会を通じて、積極的に注意を呼び掛けていくほか、会報の発行も年3回から4回に増やして、皆様の日頃の活動のお役に立てる情報をタイムリーに提供するよう努めてまいりたいと思っております。

各構成員の皆様におかれましても、全国と比較して高齢化が進んでる本県の状況をご理解いただき、特殊詐欺の被害防止と高齢者の交通事故防止に向けた取組の強化をすることへのご理解と、なお、より一層のご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

事務局のほうからは以上でございます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

はい、ありがとうございました。ただいま、事務局から説明のありました、「平成27年度の事業計画」につきましてご審議を願います。ご意見、ご質問がおりの方は挙手をお願いいたします。

よろしゅうございますか。

それでは、平成27年度の事業計画につきましては、原案のとおりとさせていただきますことよろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。それでは、こういう形で平成27年度事業を進めさせていただきたいと思っております。どうぞ、ご協力よろしくお願いを申し上げます。

本日、予定をしております議事につきましては以上のとおりでございますけれども、このほか、この総会場で検討しておくべき事項等ございましたら、またご意見等ございましたら、挙手をお願いいたします。

よろしいですかね。それでは、特にご意見などないようですので、これにて議事を終了させていただきます。

本当に、お陰様をもちまして、本日予定をしておりました議事につきましては、全て終了させていただくことができました。平成27年度の新しい重点テーマに基づきまして、事業計画を着実に進めてまいりたいと考えております。これまで同様、この27年度におきましても皆様方のご協力、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

どうも、本日はどうもありがとうございました。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

尾崎会長ありがとうございました。

尾崎会長はこの後の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。また、教育委員会田村副会長につきましても、この後の公務がございますので、同じく退席をさせていただきます。

◎会長（高知県 尾崎知事）

では、どうもお先に。来年度もよろしくお願ひ申し上げます。どうも失礼いたします。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

ここで講演の準備を行いますので、5 分間の休憩を挟まさせていただきます。この後、10 時 55 分から、次第 7 にあります、山の手子ども守り隊様の講演から行わせていただきます。

(5 分間 休憩)

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

お時間となりましたので、総会を再開させていただきます。

総会次第 7 の「安全安心まちづくり活動事例発表」ですが、資料の 11 ページをごらんください。本日は、「地域に根差した、子どもの見守り活動の取組」と題しまして、山の手子ども守り隊様からご講演をいただきます。

「山の手子ども守り隊」様は、土佐市立高岡第二小学校を拠点に活動する地域安全ボランティアであり、事件や事故・災害から地域の子どもたちを守るため、平成 20 年に設立されました。貴団体は、平成 22 年度高知県安全安心まちづくり功労団体表彰を受賞するなど、教育機関や行政と連携し、地域一丸となった活動を行っており、その活動はここにお集まりの皆様が行っている取組にもお役に立つかと思われまますので、ご静聴をお願いします。

それでは、山の手子ども守り隊様、よろしくお願ひします。

(山の手子ども守り隊・テープ音声①)

こちらは、土佐タウンポリス・山の手子ども守り隊です。山の手地区では、毎月 11 日を「地域安全の日」としてしています。子どもたちが安心して登下校できるように、見守りをお願いします。

(山の手子ども守り隊・テープ音声②)

良い子の皆さん、交通ルールは守れていますか。「横断歩道は旗を持ってさっさと渡りましょう」。「道路へは飛び出してはいけません」。

(山の手子ども守り隊・テープ音声③)

「自転車に乗るときはヘルメットをかぶりましょう」。「自転車の二人乗りはやめましょう」。

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

皆さん、こんにちは。土佐市の高岡第二小学校校長、坂本でございます。よろしくお願

いたします。

ただいま、お聞きいただきましたテープは、毎月 11 日の「地域安全の日」に、山の手子ども守り隊の皆さんが、青色回転灯をつけた車でパトロールするときに流しているテープです。本日は、山の手子ども守り隊の会長と高岡第二小学校支援地域本部コーディネーターの 3 人で実践を発表させていただきます。また、会場には山の手子ども守り隊の皆さんも、何名か出席をさせていただいております。皆さんの活動に寄せる思いと重ねながら、「地域に根差した、子どもの見守り活動の取組」について発表させていただきます。

◎山の手子ども守り隊 植田会長

皆さん、こんにちは。土佐タウンポリス山の手子ども守り隊の植田と申します。本日はよろしくお願いいたします。

◎土佐市立高岡第二小学校支援地域本部コーディネーター 中山

皆さん、こんにちは。高岡第二小学校でコーディネーターをしております、中山といいます。よろしくお願いいたします。

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

それでは、座ったままで発表をさせていただきます。

高岡第二小学校は、土佐市の北側に位置し、四国八十八カ所 35 番札所清瀧寺の懷に抱かれ、校区の山の手地区は、古墳や全国的にも話題となった居徳遺跡など、古い歴史と豊かな自然に恵まれています。高知自動車道・土佐インターを上がると、本校はすぐ左手に見えます。耐震大規模改修を終え、木の香りのする校舎となっています。

世界的な写真家・石元泰博さんは本校の卒業生で、各階の廊下の壁面にはポストカードが展示されています。

児童数は、93 名の小規模校です。本校は、平成 20 年度より文科省の「学校支援地域本部事業」の指定を受け、地域と一体となって子どもを育む取組を進めております。「山の手子ども守り隊」は、その中心的な組織と位置付けられ、地域に根差した活動を常時行っております。

では、会長さん。山の手子ども守り隊を立ち上げるようになった、それはどうしてでしたか。

◎山の手子ども守り隊 植田会長

はい。では、山の手子ども守り隊を立ち上げるようになった経緯について、お話しいたします。

私たちの山の手地域の通学路では、最近、車の交通量が非常に多く、特に朝の通勤ラッシュ時は、子どもたちが通学する時間帯で非常に危険を感じています。山の手地区で、子

どもの自転車と車と衝突事故や接触事故が何件か起こりました。また、梅雨時期の長雨や大雨のときには、学校の前の川が増水して、学校周辺の通学路が浸水し、子どもの通学に危険を感じたことがありました。私たち地域の住民で、子どもたちが少しでも、安全で安心して学校に通えるように。また、車などの事故に遭わないように、子どもたちを見守ってあげようと思いました。

初めは、地域の2人の方と一緒に3人で、子どもを見守るお手伝いを始めましたが、子ども守り隊の立ち上げの始まりでした。

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

中山さん、守り隊の活動の狙いについて説明してください。

◎土佐市立高岡第二小学校支援地域本部コーディネーター 中山

はい。山の手子ども守り隊は、土佐市山の手地区で、「地域の安全・安心は地域住民自らが主体となって守っていく」をスローガンにしています。未来を担う子どもたちを健やかに育むための学校応援団として、平成18年に結成されました。子どもたちに、積極的に関わりながら犯罪や事故を未然に防ぐという意識を持って定期的に活動しています。日常生活においても、子どもの見守り活動を行っています。登録隊員は33名です。そのうち、中心となって活動している隊員は19名です。

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

会長さん、守り隊の皆さんはどのような仕事をされていた方々でしたか。

◎山の手子ども守り隊 植田会長

はい。隊員の皆さんは、いろいろな職業だった方々が参加してくださっています。小学校や中学校の校長をされた方や、高校・大学の先生だった方、県や市の職員だった方、自衛隊や建築設計士さん。また、私のようにマグロ船の船員やいろいろな職業だった方々が、子どもを見守る活動に参加してくださっています。

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

学校教育活動の中で、山の手歴史や体験活動、学習支援など、こういった方々の専門力が発揮される場面も多くあります。

中山さん、具体的な取組について紹介してください。

◎土佐市立高岡第二小学校支援地域本部コーディネーター 中山

はい。それでは、具体的な取組についてご紹介します。

活動の始まりは、新年度のスタートである、1学期始業式です。校区のパトロールと交

通安全指導、そして、あいさつ活動をします。春休み明け進級し、やる気一杯で登校する子ども、一人ひとりに声をかけます。また、この日の入学式にも出席し、共に入学も祝います。

4月の活動日には臨時の全校集会を開いていただき、全児童に「山の手子ども守り隊」の紹介をします。自己紹介で、一人ひとりがあいさつしていきます。廊下の掲示版には、隊員一人ひとりの写真が貼られており、多くの子どもたちが隊員と顔なじみになっています。子どもたちにすれば、このおじさんたちに守られているという安心感があるようです。地域に帰ってからも、自然と子どもたちと話す機会が多くなったと聞きます。

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

日頃から、子どもと守り隊の皆さんがつながっていることを学校も実感しています。会長さん、守り隊の重点取組である「地域安全の日」について説明してください。

◎山の手子ども守り隊 植田会長

はい。私たちの山の手地域では、毎月11日を「地域安全の日」と決めまして、前後1週間ぐらい地域の指定の場所にのぼり旗を立てています。地域の方や車のドライバーさんたちに、注意をしていただくようにと願って立てています。

地域安全の日の当日の朝には、隊員の皆さんは活動着を着て、ジャンパーや帽子などを着用し、朝の7時頃から登校する子どもたちを見守る活動を実施しています。また、同時に車での巡回パトロールを行う隊員は、車に青色回転灯やスピーカーなど放送設備を装備して、点検確認を行いパトロール活動を開始します。巡回パトロールを行うときには、児童が作成した広報テープを流しながらパトロールを行っています。また、登校する児童が安全で安心して学校に通えるように、隊員の皆さんは通学路で車などに注意しなければならない場所に立って子どもたちを見守り、朝の挨拶や声かけを行っています。私たち隊員は子どもたちから、「おはようございます」「いつもありがとうございます」と、隊員の顔を見て元気な声であいさつをしてくれますと、そのときには隊員の皆さんの顔も自然とほころんでいます。

見守り活動が終わりましたら、後には隊員の皆さんに学校に集まっていただき、校長室でお茶を飲みながら、子どもたちの登校の様子やあいさつなど、隊員皆さんが感じたことを、校長先生を交えて一緒に話し合います。また、児童の様子や気付いたことを「パトロール日誌」に記載して残すようにしています。

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

次に、夏休み中の活動について紹介してください。

◎山の手子ども守り隊 植田会長

はい、学校の夏休み中の活動には、車での巡回パトロールを行っています。巡回日を決めて、午後の4時頃から3台のパトロール車に分乗して、子どもたちが遊んでると思われる場所、川や公園などを主体にパトロールを行っています。

夏休みの朝には、地域ごとに行われる子どもたちのラジオ体操にも参加して、一緒に体操も行っています。

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

中山さん、その他の取組について紹介してください。

◎土佐市立高岡第二小学校支援地域本部コーディネーター 中山

その他の取組として、防犯、防災の視点で、「地域安全マップ」を作成しています。マップを基に、危険箇所の早期発見のための通学路の安全点検を実施しています。また、危険箇所については、学校や警察、関係機関へ速やかな情報提供を行っています。特に、改善が必要な箇所は、学校や行政などへ報告しています。現場で行政との立会で意見交流を図り、道路の舗装及び橋の補修、並びに信号機の設置など、早期に対策が講じられることに結び付いた例もあります。

このグリーンの歩道も、守り隊の提案によるものです。児童が作成した「安全を呼びかける看板」を設置しました。近年、交通量が多くなったバイパスの見通しが悪いところには、市の協力も頂き、交通安全を呼びかける桃太郎旗を看板の両端に設置しました。旗が風に揺れ、動いていることで注意が喚起されると好評です。

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

守り隊の皆さんには、学校行事にも関わっていただいております。マラソンでの支援は大変有り難かったです。幾つか紹介してください。

◎山の手子ども守り隊 植田会長

はい。子どもたちが校外で行うマラソン大会の練習や本番のマラソン大会のときには、子どもたちが走るときに事故などに遭わないように、隊員の皆さん全員がマラソンコースに出て、各ポイントに立って児童の安全確保に努めています。また、走る子どもたちに「頑張れ、頑張れ」と声かけをして応援もし、子どもたちと関わっています。

また、運動会では、保護者や地域の方々に私たちの子どもを守り隊の活動を意識していただくために守り隊のジャンパーや帽子を着用し、競技にも参加しています。去年は、一、二年生と一緒に、玉入れ競争など2種目の競技に参加して、児童と一緒に楽しく楽しみました。

また、地域を挙げてのお祭りに「山の手ふれあいフェスタ」というお祭りがあります。祭りの内容・趣旨は、地域の住民と子どもたちと一緒に触れ合い、楽しむお祭りです。

す。祭りを開催するに当たって、私たち守り隊も参加して協力をしています。事前に地域のあちこちにフェスタ開催を知らせるのぼり旗を用意して、各所に設置します。また、会場準備は無論、当日は楽しく安全に実施されるよう、見守り活動も行っています。祭り行事の一つに、親子三世代の餅つき大会があります。そのときに、園児や児童と一緒に餅つき体験のお手伝いを行うのも楽しみの一つです。

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

行事でも大変お世話になっています。困ったときの「守り隊」と先生方は言います。子どもたちが安全で快適に学校生活ができるよう、学校周辺の草刈りや樹木の剪定、畑の畝作り、ヘチマのネットを張ったり、遊具のペンキを塗ったりと、先生方のニーズにも応えていただいております。

中山さん、守り隊の皆さんは昨年度大きな賞を受賞しています。紹介してください。

◎土佐市立高岡第二小学校支援地域本部コーディネーター 中山

はい、守り隊の活動は山の手地区の児童だけではなく、土佐市全体の児童・生徒の安全を見守ることに広がっています。これらの活動が評価され、山の手子ども守り隊は、これまで幾つかの賞を受賞しています。平成 22 年度には、「高知県安全安心なまちづくり功労団体表彰」を受賞しました。また、25 年度には、「文部科学大臣表彰、学校安全ボランティア活動奨励賞団体表彰」を受賞しました。

ここで、受賞祝賀会の様子と、子どもたちからのメッセージを紹介させていただきます。

(ニュース番組の映像アナウンス)

山の手子ども守り隊が文部科学大臣表彰を受賞したことを受けて、11月9日土曜日、土佐市高岡町にある割烹玉杯で祝賀会が行われました。

山の手子ども守り隊は、土佐市の高岡第二小学校区で、「地域の安全・安心は地域住民が自ら守っていく」をスローガンとし、平成 18 年に結成しました。毎月 11 日を「地域安全の日」とし、前後 1 週間の間、校区の各地区にのぼり旗を立てての広報活動や、主要交差点のパトロール活動を地道に継続。夏休みには子どもたちと一緒にラジオ体操を行うなど、子どもや地域の安全・安心を見守り続けています。

(子どもたちのメッセージテープ)

「山の手子ども守り隊、文部科学大臣賞おめでとう。」

「いつも僕たちの登下校を見守ってくれてありがとう。」

「いつも明るいあいさつ、ありがとう。」

「おはようございます。」「おはようございます。」

「みんなが気持ちよく過ごせるように、草刈りをしてくれてありがとう。」

「学校行事の手伝いに参加していただき、ありがとう。」

「マラソン大会、いつも見守ってくれてありがとう。」

「マラソンがんばるぞ。「おう。」

「毎月 11 日、見守ってくれてありがとう。」

「山の手子ども守り隊の皆さんは、山の手之宝です。」

「山の手子ども守り隊の皆さん、いつもありがとう。これからも、第二小をよろしくお願ひします。」

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

最後に、会長さん。今後の活動についてどのようにお考えですか。

◎山の手子ども守り隊 植田会長

はい、私たちも守り隊員も少し高齢の方が多くなりましたが、これからも無理をしないで気楽な気持ちで活動に参加していただき、子どもたちのためにこの活動を継続していかなければいけないと思っています。

これからも、子どもたちは地域の住民が、地域が見守ってあげなければいけないと思っています。

◎土佐市立高岡第二小学校 坂本校長

以上で、「地域に根差した、子どもの見守り活動」についての発表を終わります。

ありがとうございました。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

ありがとうございました。

山の手子ども見守り隊様の、細やかな愛のある見守り活動について発表していただきました。見守られる子どもたちだけでという一方的なものではなく、何かキャッチボールができていようなそんな活動のように思いました。正に、地域に根差した子どもの見守りといえる活動ではないかと思ひます。

ただいまの活動事例発表につきまして、ご質問などありましたら挙手をお願いいたします。

何かご質問等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、以上で活動事例発表を終わります。大変有意義な発表をありがとうございました。皆様、山の手子ども守り隊様にもう一度拍手をお願いいたします。

どうもありがとうございました。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

続きまして、総会次第8にございます、講演を行います。資料の12ページをごらんください。

本日は、「犯罪からの子どもの安全－自助・共助の力を地域でつけよう－」と題しまして、株式会社ステップ総合研究所所長であります、清永奈穂様からご講演をいただきます。

講師の清永様は、平成12年に「株式会社ステップ総合研究所」を設立され、犯罪などの住民が遭遇する危険の実態把握及び調査・研究を行っております。また、清永様は、犯罪や地震、交通などの子ども・女性・高齢者などを取り巻く危険を察知し回避するための方法を教育・普及することを目的として、「NPO法人体験型安全教育支援機構」を平成24年に設立し、子どもたちが被害者とならずに、自ら危機を乗り越えられる力を身につけてもらうため、全国各地で体験型安全教室の開催、講演活動に取り組んでいます。

この1年間を振り返ってみますと、岡山県や兵庫県、そして本年2月には和歌山県と、全国的に幼い児童が被害者となる痛ましい事件が発生しており、ご家族の安全や地域を取り巻く環境に不安を感じていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。

この度は、「犯罪から子どもを守る対策」をテーマとしたご講演を依頼しており、本日お集まりの皆様の方々の今後の取組にも大いに参考となると思われまますので、ご静聴をお願いします。

それでは、清永様、よろしく申し上げます。

◎株式会社ステップ総合研究所 清永所長

皆様、こんにちは。ただいまご紹介いただきました清永と申します。

ちょっと、ずっと座ってばかりだったので、手をぐっと上に上げてみましょう。伸びて、伸びて、伸びて、はい、下ろしてください。ちょっとすっきりしましたか。今、手を上げてくださった方、これができる方が、私は防犯ボランティアだと思っています。恥ずかしいなと思いつつも、ちょっと一歩前に出られるっていう、その活動ができる方々が今日集まってくださっているんじゃないかと思って私は来ました。

実は私、この高知、来るのは初めてです。とても楽しみにしていました。私、隣の愛媛県出身なんです。高知は愛媛の者にとっては憧れの地にして、いつか大きな海を高知から見てみたいと思っていました。

私の父親は、警察庁の科学警察研究所という、ちょうどあのイスラム国の分析なんかをつい最近までしていた研究所におりまして、その後日本女子大学というところに移ったんですが、その父がちょうど35年前ぐらいですかね、この高知で調査研究をさせていただきました。高知の人はお酒が好きでっていう話を毎晩聞いていまして、更にそれだけではなくて、豪快に見えるけれども、すごく繊細で細やかな心遣いをいただいて、情に厚くて、特に女性が素敵だったと申しておりました。

今日は女性の方がたくさん多くて、私はうれしいです。またいろいろお話聞かせていた

だければと思ってるんですが。そして、高知の人が素敵だっていうのが、ここに来て私も実感したのが、先ほどご質問をいただいた和歌山の事件と川崎の事件について、ご質問をしてくださった方いましたね。あのような質問がこういう場に出るっていう県は、ほかにはないです。私のような者でも、いろんな県で呼ばれてお話をさせていただくことがあるんですが、大体こういう総会なんていうのは、ほぼ台本通りに進み、そして、ああいった今の事件のことを、自分の地方、自分の地域でも起きるんじゃないかという、自分のこととして意識を持っている方が、自分で手を挙げて、更に皆さんに問題を投げ掛けるというようなことは、この高知でしかあり得ないなというふうにして思って、後ろで拝見していました。

今日は、「自助・共助の力をつける」というテーマでお話します。この中に、そういった加害者にしない教育っていうものも含まれています。これからの安全教育は、結論から申しますと、「地域で行う」。「地域の人が地域の子どもを大人にする」っていうことが大切な、そういったものが必要な時代だと私は思っています。1時間はあっという間ですので、しっかり聞いていってください。

まず、ちょっとおさらいしましょう。子どもの犯罪被害というのはどこが多いかっていうと通学路、そして普通の道路っていうのが最も危なくて、そして公園が危なくなっています。何で通学路が危ないんでしょう。理由は簡単。通学路というのは、そこで待っていれば、狙った子どもが狙った時間に必ず通る。他のところはあちこち動き回って自分が労力をたくさん使わないといけないんですが、犯罪者というのはもともととても怠け者です。いかに合理的に簡単にその獲物に近づいて、しとめることができるかっていうことを考えます。なので、通学路というのは、一番獲物が通り簡単に近づける。だから山の手の方々も通学路を守っているし、皆さんほかの方々も通学路を念入りに守っているんだと思います。犯罪者が近づきやすいからっていう理由があるんですね。

それでは、質問です。これから12枚の写真を見せます。ある子どもの通学路です。この中で実際に自動車に乗った犯人が子どもを連れ去り殺害するという事件があった、その最初の連れ去った現場の写真が出てきます。どこで連れ去られたか、真剣に考えてください。ちなみにこの現場の写真、どこだかお分かりになります。誘拐事件。そう。昨年、容疑者が8年ぶりに逮捕されました。栃木県の今市市というところで、吉田有希ちゃんという女の子がさらわれた事件です。だから3番の写真。すごく見覚えありますでしょう。

じゃあ、ちょっと順番に聞いていきますね。1番だと思っ方。1番の場所で連れ去られたと思っ方。見えますか。2番だと思っ方。では3番だと思っ方。なぜ3番だと思われまっ方。報道の中で見た、お友だちと3人ぐらいで帰った。そう。そうなんです。しかし残念。それは合っているんですが、これはここで別れましたという写真なんです。ここでさらわれたわけではないです。では、4番だと思っ方。なぜ4番だと。確か車が来て。ああ、近づきました。なるほど。では、次、5番だと思っ方。6番だと思っ方。6番・7番は一緒です。私たちが車を持って行って、もしここで車で連れ去るとしたら、どういう状況にな

るかなと思って実験をしている風景です。6番・7番だと思う方。はい。じゃあ、8番だと思う方。なぜ8番だと思われませんか。道が分かれているから。ああ、鋭い。なるほど。では、進んでいきましょう。9番、8番のところを通り過ぎた、9番はこっちから反対側から見た様子で、8番・9番ほぼ一緒。9番だと思う方、はい。10番だと思う方。11番だと思う方。12番だと思う方。あれ、挙げてない方は棄権。

もう1回じゃあちよっと見ていきますね。1番。ちなみに1番、これは女の子が通っていた小学校と奥が中学校になっています。今、もし彼女が生きていたら高校1年生になっています。同級生の子たちは、ほとんどその後ろの中学校を卒業しました。その同級生の子たちは中学に入って3年間過ごしたんですが、今までその中学では起き得なかった、起こらなかった事態になりました。その同級生が3年間過ごしてる間に。学校又は生徒たち、どうなっちゃったのでしょうか。ここの子どもたちの状況ご存じでしょうか。あの事件が起きてから犯人は8年も逮捕されなかった。その間子どもたちはタクシーで通学したり、それから午後5時以降は外出禁止でした。危ないから。なので、中学生も部活は、冬なんかはもう走って終わり、っていうぐらい早くに帰って、あとはおうちの中で過ごしていく。いつもいつも誰かが付いている、小学校時代ずっと。それから中学に入っても、午後5時以降は出ちゃいけないっていう生活をしていました。彼らの中学校はどうなったでしょう。分かります。どのような変化が起きたでしょう。ストレス。そう。正にそうなんです。いつもいつもスポイルされていて、守られていて、発散する場が学校しか無くなってしまった。だから、学校の中で机は投げる、黒板は壊す、先生は殴るっていうことになってしまって、しかも学力も落ち、体力も落ちっていうことで、これからどうやって立て直そうかっていうふうにして教育委員会は悩んでいるわけです。

では、答えを言っていきましょうね。答えは8番。そう、8番又は9番。なぜか。先ほどの方がおっしゃったように、分かれ道があります。でも、分かれ道。実は、このちよっと戻りますね。この分かれ道の前に、この住宅自体が、実はこの地域の中で非常に特殊な場所でした。この家は普通のおうちじゃなくて、工事に従事する方の寮になっていました。他のところは割と決まった人が住む小さい村だったんですけれども、ここだけ不特定多数の人が出入りしてもおかしくないと認識されている場所になっていました。つまり、ここで犯人がうろうろしていても、それから車を止めてじいっと長くいても、「ああ、工事の人だろう」と思われていた。つまり、他のところでじっと立っていたら、不審者として他の人に認識されてしまっていた。ここだけは、この寮を隠れみのにして、長い時間子どもを待っていることができた場所なんです。

それからもう一つ、先ほどの方がおっしゃった分かれ道、実はこっちにも分かれ道があって、こっちの分かれ道を行くと、この道なんです。女の子は毎日、どちらに行くか、その日の気分で道を決めていました。でも、断然こっちに行くほうが近道だった。こっちに行くことのほうが多くて、お母さんがお迎えに来る日はこっちを通ってくるというような毎日でした。なので、犯人は必ずどんな事件でも、ほとんどの場合下見をします。下見を

して、この子がここでこっちに行くか、こっちに行くか日によって違うなっていうのを掴んでいました。なので、この分かれ道の起点のところで待っていれば、確実に出くわすことができるということで、ここを選んだんです。警察犬が嗅いでも、ここでぱたりとやっぱり女の子の匂いが消えたということでした。後で容疑者に聞いたら「ここで連れ去った」ということでした。でも、車に子どもを連れ込むのにはとても力が要るんです、実は。ぐっとう入るのに。私たちもこの前、さっきの写真で実験したように、どうやって車の中に子どもを連れ込んだらう、2人組だったんじゃないかとかいろいろ思ったんですけども、犯人はスタンガンを突き付けて、首に。そして子どもを引き入れたということでした。この日、ほとんどこの女の子のうちは送り迎えをしてたんです。でも、この事件の日だけ、たまたまお迎えに行けなくて、ということで事件が起きた。つまり犯人は無計画ではなく、ほとんどの場合下見をし、「今だ」っていうチャンスを狙って、その瞬間になった途端にさらっていくということなんですね。つまり、偶然起きるのではなく、私たちにとって、被害者にとっても隙間をついてくるということなんです。

ほかの事例、ちょっと見て行きましょう。去年、札幌で女の子が何日か帰ってこないということがありました。あれも女の子の自宅すぐ近く、歩き慣れた道でした。すぐ近くのいつも行っているお店に行く道。そして白昼の3時半という、「この時間は大丈夫だろう」という、そういう時間の隙間をつかれました。そして、「警察官だ。一緒に来てくれ」。実際これ、この事件のときは偽だったんですが、群馬で本当に起きてしまいましたね。「警察官だ。一緒に来てくれ」という社会の信頼の隙間を抜いて連れ去っていった。正に偶然ではなく、死角を巧みに突くというのが犯罪者です。

これ、この写真どこだか分かりますか。去年、神戸市長田区で女の子が殺害されました。そのさらわれた現場です。普通のバスが通る道路。全然薄暗くてどうとかっていうところではなくて、あの「湯」と書いた看板の真下まで男はつけていってました。つけていって、「よし、前にも後ろにもいないな」ということで、その看板の下のところで「君、絵のモデルにならない、かわいいからなってくれないかな」ということで、連れて行っただけで言われています。結構、この犯人の家までここから遠いんですよ。ここずっと歩いて、途中で交番もあります。このマンションのちょうど後ろ側、この山のところが遺体が遺棄されていた山です。ここまでずっと歩いていく途中にいろいろあるんですけど、何で誰も見てなかったんだろうって思いました。でも私が行ってみると分かったのが、事件が起きたのは木曜日。木曜日は、その辺の散髪屋さんも病院も八百屋さんもみんな休みだったということ。つまり同じ道なんだけど、曜日によってはぱたりと人がいなくなったりするときがある。そういうものを計画的、あるいは直感的に「今だ。いいな」と思って選んでくるのが犯罪者です。つまり子どもの安全というのは、守るためには地域に隙がない、子どもにも隙がないっていうのが一番大事なんですけど、でももし地域に隙があっても、自分で自分の安全を確かにしなければならぬ。そしてどんなに周囲に隙がなくても、いつも友達がいるわけではなく、いつも守り隊の方がいるわけではない。ひとりぼっちになったと

きに、やっぱり自分で守れるようにしなければならないというのが現実なんです。

じゃあ、子どもたちがどんな被害に遭っているかっていうと、大体がほとんどが不審者に声をかけられて、「どこかに行こうよ」というふうな被害が多くなっています。いきなり後ろから羽交い締めにして連れ去るというのではなく、ほとんどの場合、何らかのコミュニケーションがあります。それから、じっと見つめられるというのもそうですね。つきまとわれる、追いかけられるみたいなことが意外と人を狙っています。

一方、じゃあそのとき子どもはどうしたかっていうと、「走って逃げれた」という子は半分います。会場の後ろに防犯教室が行われている写真を見ました。たくさん防犯教室をして逃げられる子も半分はいます。高知でも恐らくそうでしょう。だけど、「大きな声でいざとなったら叫べますか。それから防犯ブザーを鳴らせますか」っていうふうになると、もう3%とか10%しかありません。あと、「駆け込みましょう」って言いますけれども、駆け込むこともできない子がとても多くなっています。そして「何もできなかった」っていう子も5人に1人になっています。

というふうに、やっぱりいざというときに体がなかなか動かない。それは当然です。頭で分かっても、体も連動して動くような学習を受けてないからなんです。算数の問題を出します。解き方教えました。その後子どもたちは練習をします、いっぱい。そして身に付けていくんですが、安全教育に関してはそういう積み重ねが今までされてきていません。実際、犯罪者というのはとても巧みに。先ほどどなたかが言ってました。巧みになってきています。振り込め詐欺も一緒。子どもへの誘い文句も一緒。その子どもを見て、この子だったら「警察官だ。一緒に来てくれないか」と言ったら来るんじゃないか、この子だったら、「うさぎを一緒に探してくれないかな」、それから「お兄さん困ってるから助けてくれないかな」と言ったら、この子だったら来るんじゃないかっていうふうにして、その子を観察して当てていきます。ほとんど当てずっぽうでやるのではなくて、その子を見て、この子だったら優しそうだから来るかなとか、そういうふうにして狙ってくるんです。そういうものに対して、やっぱり子どもが力を付けるってことがとても大事。でもそれだけじゃなくて、やっぱり山の手の方たちのように見守るっていうことも、実はとても効果があるんですよ。犯罪者が目の前に現れるまでの間は、実はとても効果があります。ちょっと後で詳しく言いますね。

犯罪には特徴があるということは、私は元犯罪者の方たちから習いました。私の父が科警研にいたこともあって、警察庁から腕が良くて、でも本当は心根はいいっていうプロの犯罪者を紹介してほしいっていうふうにして言われたときに、彼なんか数人を紹介してもらいまして、一緒に行動を分析しました。どのように下見をするのか、なぜその場所で狙うのか、なぜその子を狙うのかっていうようなことを一緒に勉強しました。彼から聞いたところ、加害者といっても、プロ、セミプロ、アマ、3種類あるんだっていうこと。ちなみに先ほどの「猿の義ちゃん」はプロ中のプロの泥棒さんでした。首相官邸でも入るだろうっていう。非常に頭がいい人でした。アマチュアタイプっていうのは、子どもを狙

う犯罪者の多くは素人で「好きな、好みだ」と思った子に瞬間沸騰的に挑みかかるような人ってことです。それから、これは資料の中にあるのでゆっくり後で見てください。子どもをいじり回すことが半ば趣味となっている者。それから、プロは、人数は極めて限られているが、子どもをつけ回すことが常習的になっている、それ自体が生活になっているってような者」、この3種類あります。

もう一つ、「猿の義ちゃん」たちから習ったのは、犯罪ってというのはどこでも起きてしまう。だけど、起こさないようにすることもできるんだということなんです。犯罪者というのはすごく、最初に言いましたけど、合理的で「ここがやりやすいな」、「簡単にできるかな」っていう時間帯、場所、人っていうのを狙っていくんですね。逆に言うと、ここでは絶対に犯罪を起こさせない、山の手の地域では絶対に犯罪を起こさせないって頑張ると、犯罪者は隣の地域に移っていきます。「ここはどうもやりにくいな」。だから努力をすれば報われるし、努力をしないところはどんどん犯罪者は入ってくるということなんです。その犯罪はほとんどの場合に「前兆」があるっていうことも教えてくれました。絶対に失敗して捕まりたくないってのが犯罪者です。なので、下見をします。ぐるぐる回って。例えば家1軒ありました。この家に泥棒に入ろうかなと思ったときに、泥棒さんは何カ所、その家又はその周辺をチェックすると思いますか。そちらの方。もし泥棒するとしたらどのぐらいチェックします。何項目ぐらいチェックしますか。38ぐらいは見ます。しかも長い間眺めていると不審者だと思われるので、真っすぐ歩きながら、ちらちらと目の端だけ動かして、その瞬間に38カ所ぐらい。カーテンの色、自転車の置き方、ダンボールなどが置いてないか、鍵の様子、隣家との間の距離など、そのぐらいは見て回ります。子どもを狙う側も一緒。何時何分頃、この子は何曜日だったら1人で通る、何曜日だったら2人で通る、何曜日だったらお母さんが来るってようなこと。それからここで誘おうと思ったときにその近くの家の住民は居るか居ないか、人通りはどうかっていうようなことも見ていきます。なので、こちらも防ぐためには犯罪者と同じようにパトロールをしないとイケないんです。ちなみに犯罪者の下見は、二、三回します。最低ね。そのときに例えばぐるっと回っていきます。1回目ぐるっと回りますね。2回目はどのように回るかっていうと、逆向きに同じルートを回っていきます。なぜかっていうと同じものをいろんな角度から見たいから。なので、皆さんもパトロールするときに、もし後から言いますが、「6/3/2」という法則があって、1週間に2回ぐらい、例えば不審者情報、何か違う犯罪の情報みたいなものが、1週間に2回になったときには、そういったいつものパトロールの道を、逆向きに同じように歩いてみるということが必要になってきます。こんなふうに前兆というのは、例えば「不審な車がいた」、「人がいた」っていうのもそうなんですが、違う事件が起きていたってようなことも前兆の一つになります。

これは、広島で女の子が殺害された現場です。ひたたくり犯がとても多かった。つまりひたたくりのように、物やかばんを狙うような者にとっても、それから子どもを狙う犯罪者にとっても「ああ、この地域は犯罪がしやすいな」っていうポイントは一緒なんですね。

なので、皆さんの地域で子どもは狙われてないけれど、何かこういう変な事件が起きてるってようなことがあったら、要注意。ちなみに、これは練馬区の小学校の前で子どもたちが下校の時間、門から出てきたすぐにナイフで刺された現場です。これはうちの息子です。立たせてみました。ここに子どもたちがいるっていうのを、実は犯人は3時間前からずっと青い車の中から見えていました。子どもが出てくる方向をじっと見ていたっていうのを後から近所のお店の人たちは言っていました。実はこの事件の1カ月前、この犯人はナイフを持って学校の中をぐるぐる走って「子どもを殺してやる」と言って走り回っていたそうです。その1週間前は通学の付添いをしていたお父さんの顔を殴るっていう事件も起きていました。でも、保護者にはその情報は一切流れてなかった。なぜかっていうと、被害者になったのが子どもではないから。なので、事件として流してなかった。だけど、そういう事件、子どもが被害になっていないけれども、そういった情報も、実は事件の前兆として捉えておくべきだったと私は思っています。さっき言った「6/3/2」です。半年に6回、もし皆さんの地域で何かおかしいなっていう車や人がいた、又は露出狂がいたとか、違う罪種でもいいです。みたいなこの情報があったら、「あっ、この地域は汚れてきてしまってる」と思わなければならない。それが1カ月に3回になったときには、これは黄色信号です。このときに非常に有効な手段は、「安全安心な高知県」っていうような優しいポスターではなくて、私たちはこの地域でこういう犯罪は絶対起こさせませんよっていうような、犯罪者に対するメッセージを街の掲示板とかに貼ること。「私たちは先日痴漢を捕まえ損ねましたが、みんなで今度は追いかけます」でもいいし、「この前は露出狂をみんなで追いかけて捕まえました。ご協力ありがとうございました」でもいいし、何か「この地域に入ってきた途端に悪いことしようとする」というようなものをこの1カ月に3回のこの時点のときにやらなければ、1週間に2回、そして今日の午後子どもが襲われてもおかしくない事態になってしまう。だから、いつもいつも緊張してなくてよくて、情報を集めて今どのぐらいのものなのかなっていうリーダーの方が常に前兆を察知しておくということが、これからとても重要になってきます。

もう一つ、犯罪者にとって「やりやすい」と思えば犯罪は起きます。じゃあ、「やりやすい」ってどういうことなのかっていうと、犯罪者は下見すると言いました。まず、「獲物があるかな」というふうにして、ぶらぶらと歩いていきます。もうちょっと行くと、「あっ、この辺は見とがめられないな」というふうにして見ていきます。そしてさらに、「やりやすいな」と思ったら「やる」というふうになっていくんですね。これ多分資料の後ろのほうになってしまっているかもしれない。つまり、20mのところ「獲物がある」、「見とがめられない」、「やりやすい」と思ったら、もう「やるぞ」と突き進んでくるわけなんです。なので、皆さんがパトロールする際も例えば20m先ぐらいに「どんな人があるか」、「どんな車があるか」、「どんな自転車があるか」っていうものを常に視界に入れておかないといけない。本当言うと、前後左右20mのぐらいのところに「どんな人物があるか」、「どんな人があるか」っていうのを目の隅でいいので見ておく。子どもたちも登下校のときに、目

の前1、2mを見るんじゃなくてちょっと前を、そしてそれが20mぐらい前を見て、知っている人だったらご挨拶しなきゃなって思うし、何か、じいっと自分のほうを見てくる、執拗に声をかけてくるみたいなことがあったら、引き返したり、反対側に渡ったりっていうようなことができなければならないわけなんです。

この20m。とても大事な数字なんですけど、20m先から犯罪者というのはぐんぐんぐんぐん心が変わっていきます。じゃあ、すいません。よろしいですか。20mだと思ってる所でちょっと引っ張っていただけてますか。はい、これでやっと20mです。ここの時点で、犯罪者は「獲物があるぞ」、「見とがめられないな」、「やりやすいな」と思ったら、ぐんぐんぐん来るわけなんです。

では、大変申し訳ないんですが、こちらの3人の方、かばんを持って前に出ていただけますか。横に並んで、はい。では、3人の顔見えますか。よく見えませんよね、まだ。ここからじゃあ、どちらの方のかばんにたくさんお金が入って、「あれをひったくってやろうかな」という気持ちでちょっと近づいてきてみてください。いいですか。ストップ。そこ何mですか。7m、14mぐらいですかね。大体、ここぐらいのときに、「誰にしようかな」という気持ちになってきません。もうちょっと近づいてきてください。ストップ。そこ何mですか。11m、9mぐらいですね、ここから。そう。ここぐらいで実は犯罪者はほぼ、もう顔もはっきり見えてきますね。誰にしようか、ほぼ決めます。

では、ここから問題。最終的に「よし、やるぞ」と決めた時点で止まってみてください。この距離は6mですよ。ぱっちり。何でここだと思ったんですか。勘、すごいな。ちょっとセンスがあり過ぎますね。じゃあ、どなたにしますか。真ん中の方は絶対狙わない。いかにも強そう。仕返しされそう。右の方は何となく簡単に襲えそうだという。すいません、ありがとうございました。拍手をお願いします。あともう一つ、なぜそこで止まったんですか。何となくしかない、勘しかない。すばらしいですね。勘しかない、それはもう正に「猿の義ちゃん」が言っていた言葉。「何となくしかない」と彼も言っていました。

じゃあ、それをご説明しましょう。それを私たちはなぜか解き明かします。まず先ほどの、ちょうど本当に20~14、14~9、そして6のところでしたよね。人間の心がぐんぐんぐんぐん変わっていく、この6のところでもし周りを見ている人がいない、そして逃げ道もある、対象者が非常に自分の好みの者だっているようなターゲットがっているようなことがあったら、「ここでやるぞ」と思うわけなんです。この、「獲物がいい」、「見とがめられない」、「やりやすい」の条件が、多分恐らく先ほどの方にとっても整ったところが6mのところだったと思うんです。さっきの20mのところから6mのところまでに、他の方がちょっと「こんにちは、何やっているんですか」とか、「どうもどうも、道に迷われているのですか」というような声がけを6mのところまでにしていけば、彼は戻ったでしょう。誰かに見られる、捕まるかもしれないってことがあったから。でも、もう6mのところまで来させてしまったら、そこは極点機会と言います。そこから先は子どもが、また大人も自

分で守らなきゃいけないという覚悟を持たなければ遅いわけなんです。犯罪者いわく、挨拶されなかったり、「どちらへ」って声をかけられなかったり、見つめられなかったり、それから、すれ違ってもう一回振り返って見られなかったりしたら、「ああ、ここの住民は簡単にだませるぞ」と思います。この振り返って見るっていうのは実はとても有効で、犯罪者は捕まらないために後ろにも目が付いてると言われています。後ろで「あっ、振り返って見られた」という雰囲気を感じます。なので、振り返っても見られてしまった、足元も見られてしまった、みたいなことがあると、非常に犯罪者にとっては、この街じゃなくて、「この街は苦手だな。よそに行こう」というふうに思います。先ほど6mのところ、恐らくあちらの方が決めた決定打は、いかに近づきやすいか、そして逃げやすいか、いいイメージかっていうところが瞬時に多分浮かんだと思います。それは言葉にならないものでもあるんですが、言葉にあえてしてみました。まず、被害者が油断しているとか、時間、場所、人、心に隙間があるように見えただけでしょう。それから、ほかにも通学路、今の場合ではなくですが、通学路なんか狙われるのが標的が必ずそこを利用して近づきやすいから。冒頭で言いましたよね。そして、公園なんかのトイレが一番危ないのは、被害者、加害者だけの閉じた空間になることが多いからなんです。

例えば、事件現場を見ていきましょう。これ全てこれからの写真は事件現場の写真ですが、こういうふうに普通の家の入口ですが、必ず子どもはここを通過しておうちに入りますよね。おうちの前っていうのは狙われやすい。おうちの前で誘って、実は横っちょの人目がないところに誘い込んですごく悪いことをしたんですが、こんなふうに、何時何分だったらその子が通って、このうちの人もないということを探って調べてから行っています。あとはこういうふうに閉じている空間です。どこにも逃げられない、これも西区で女の子が殴打された事件現場ですが、どこにも逃げられない、それからこれも松戸で女の子が刺された現場ですが、右にも左にも逃げられない、足元は砂利道で走りにくいというような場所を選んでいきます。いかに近づきやすいかというところを狙っていきます。ここもそうですね。あと真っ暗だとなおさらそうです。あと、カーブと盛り土、木々で見えなくなっているようなところも非常に近づきやすいと思う。それから、逃げやすいっていうのは場所、時間、人に問題があると。例えば道路が折れ曲がっている、簡単に後ろから乗ってもまける、それから人気はぱったりと途切れる時間帯、それから見ている人がいないようなところは、逃げやすいと思うわけなんです。だから、皆さんもパトロールとかをしていくときに、この近づきやすくて逃げやすいっていうようなところも見ながら安全マップなんかも作らないと、単に入りやすくて見えにくいだけだと必ず見落とします。実際にこういった山口県の現場ですが、ちょっと出るともう1、2分もたらず30秒で国道に出られるようなところでした。それから、これはふだんの朝晩は通勤通学で人が多いんですけど、日中はぱったりと人気が無くなるとか。あとは、人はいても関心がない、学校の中なんかは、人がいるんですけども外に向けての関心はないですよとかっていうのが。あと県道、高速の近くなんかはぱっと悪いことしてぱっと遠くに逃げられるということで、いかに逃

げやすいかということを考えています。

そして最後、「近づきやすく」、「逃げやすく」、「いいな」っていうイメージの、「いいな」っていうイメージはどういう意味かっていうと、「街が汚れている」、「人が無関心」、「恐れを生み出す物がない」というところです。例えば、ゴミが散乱している、落書きがされている、自転車が放置されているというようなところは、ここの住民は街をきれいにしようとしな、街のそういった汚れに対して無関心である、街を愛していない。つまり、自分が子どもに声をかけたとしても誰も見とがめないだろうっていうふうに思うわけなんです。

なので、事件現場を見ていきますと、実際やっぱり掲示板がこんなふうに汚れていたり、ごみ捨て場のように郵便受けがなっていたり、それから学校自体もごみ捨て場になっているっていうようなことがあります。放置自転車もたくさんありました。ちなみに、この犯人は女の子のおうちの前で3時間電信柱の影で待っていました、帰ってくるのを。近所にお店もたくさんありまして、お店の方も知っていました。だけど、誰も「何しているんですか」と一言かけなかったし、交番などにも相談に行かなかったわけなんです。子ども自身にも、例えばああいうごみ捨てのルール、掲示板が汚くなっていたらどうしたらいいかみたいなものは高学年でも低学年でも考えられることです。自分たちが被害に遭わなくて守られることばかりじゃなくて、自分がこの街のために何ができるだろうっていう子どもに育てるのも安全教育の大事なことです。だから、汚れている掲示板があれば一緒に防犯ボランティアの方と貼り直す、一緒に掃除する、一緒に何か子どもも自発的に能動的に動くということが必要です。

そのためには、子ども自身もどこが危ないのかというのを「ひまわり」という言葉や、ほかにもたくさんありますが教えています。私、今日皆さんにお持ちした、「犯罪からの安全学習ノート」というのがあります。この中に子どもたちが自分で危ない場所をチェックできたりするチェック項目とか、あと覚えるべき標語とか、あとはどのように体を動かす練習をしたらいいかみたいなものが全て入っていますので、今日これを全部ご説明はできないので、是非持って帰って中を読んでみてください。例えばこんなふうに、高学年だったら実際に地元の子どもたち、また場所の写真を撮って、「一人だけになるところ」、「周りから見えにくいところ」、「分かれ道、裏道」、「利用されていない家や空き地や駐車場」みたいなものを覚えさせるのもいいでしょう。というふうに、これも子どもの社会性を育てるのに大事な一歩ということで、子どもを賢くするのもそうだし、あとは見守りパトロール。それから保護者、先生が側にいれば、近づきにくくなり、逃げにくくなり、イメージが悪くなり、ということで、犯罪者にとって犯罪というのは起こす、起きない、起きなくなるということなんです。もう一つ覚えておいていただきたいのは、さっき何となく相対的に見て一番向かって右側の方を選ばれましたよね。というふうに、狙いやすい子どもっていうのもいます。なので、とにかく弱そうな子、それからちょっと顔つき、体つきなどがアンバランスなような子、それから一人歩き・一人遊びしている子、それからボンヤリ・フラフラ・ウロウロ・キョロキョロしているような子、それからハッキリ言えなさそ

うな、きっぱり言えなさそうな子っていうような者を狙っていきます。なので、クラスの中でもし学校の中とかでもこういったような子がいたら、よりそういう子には注意をして見てあげないといけないわけなんです。それだけではなくて子ども全般的にですが、大人より視野が狭いという特徴があります。そもそも視野が狭いということです。

よろしいですか、すみません。私とあちらの方の姿、まっすぐ前を見た状態ですと、視野の中に入っていますね。これは子どもの視野を感じられる道具ですが、ちょっと目の前にかけてみてください。それをかけるとどうなります。全く見えなくなります。子どもはとても視野が狭いんですね。だから、あっちを見ようとするとキョロっとなるし、こっちを見ようとするとキョロっとなる。キョロキョロしてしまうし、ボンヤリもフラフラもしてしまう。だけど、その隙にいつの間にか近づかれてしまっているというようなことがあります。なので、さっき「20m先を見ましょう」と言いましたけれども、子どもにとっては実はそんなに簡単なことじゃない。だからこそ、しっかりと歩くっていうところから教えてあげないといけないんです。どうもありがとうございました。お戻りください。では、これ回しますので、ちょっと子どもの視野を、この穴の空いているほうに入れるような感じで見てみてください。

つまり、犯罪者というのは突然襲い掛かるのではなくて、非常に合理的にいくということ、そして前兆があるということ。では、その前兆をつかむためにもう一つ大事なポイントがあります。子どもを狙う不審者・犯罪者というのはどういう者か、どういう人か。見たことある人いますか。これが分からないと、例えば、これから企業の方にこういう人がいたら教えてくださいとか、あと何か配達をしている途中でこういう人がいたら教えてくださいと言っても、誰もが犯罪者になってしまうし、知らない人は、例えば子どもはみんな犯罪者だと思ってしまう地域もあります。知らない人には挨拶をしちゃいけない、知らない人には近づいちゃいけない。でも、そうではいけないと思うんですね。そういうことが、例えばこの前の和歌山の事件にもつながっている。一人で、例えば何かを振り回している人が、もしかしたらそれは「おかしい」、「変だ」、「笑ってしまおう」っていうのではなくて、誰かの助けが必要な人だったかも知れないわけなんです。「ちょっと変だな」だからこそ、だから不審者、だから悪者ではなく、ちゃんと不審者はどんな人かを見極められるようにならなきゃいけないわけなんです。

大変申し訳ないんですが、これを着けていただいてよろしいですか。不審者について子どもたちに聞くと、ほとんどの場合、このようにマスクをしてですね。サングラスをして、帽子を被ってというような人を不審者だと思う人が多いんです。上下黒のジャージを着ていて、黒い眼鏡を掛けてマスクをして帽子を被ってというような人を見たら、犯罪者だと思う人がいる。けどそうではない。この人が今何かしたかっていうと、何もしてない、まだ。慌てて防犯ブザーを引かなくてもいいし、「助けて」と言わなくてもいいわけなんです。こういう人が、又は何も着けてなくても、どういう態度をしている人なのか、どういう行動をしている人なのかというのをしっかり見て見極められないと、変な差別も起きて

しまうということなんです。取ってみてください。子どもたちに教えるときに、こうやって人間というのは、「ほら、着ける物で変わるでしょう。取ったら元の優しいおじさんに戻るよね。人間というのは着ける物で変わってしまう。だからといって、こういうのを着けるから悪い人じゃないんだよ」っていうようにして教える。ありがとうございます。

では、どういう人を悪者だと。悪者っていうかな、前兆的なものだというふうに認識しなきゃいけないかっていうと、特徴があります。まずもって、怪しい人っていうのは3種類に分けられます。「変な人」、「怪しい人」、「危ない人」ですね。変な人っていうのは、ちょっとその場・その時・その人に似合わないな、何となくこの雰囲気の中に合わないなというような人。その段階では余り大騒ぎをする必要はないわけなんです。だけど、この変な人が、例えば、ジッと見つめてくる、話しかけてくる、態度に落ち着きがない、変にいらいらしてるなっていうようなものが表れてきたときに、これは怪しい人だと認識して、ちょっとさっとよける、または引き返す、または防犯ブザーが鳴らせるように準備をしていくっていうようなことが必要になります。すれ違う、何かどうしてもすれ違わなきゃいけないなっていうときも。

例えば、ちょっと立っていただけますか。じゃあ、子どもだとしましょう、ちょっと向こうから歩いてきましょうか。私が犯罪者だとします。悪い人。前からこういうふうに来たときに、子どもだったらどうしなきゃいけない。そう、よけなきゃいけません。どのくらいでしょうか。

人間っていうのは、いきなりこうつかむんではなくって、一歩前に出てつかみます。この距離が相手の身長、この私の身長×0.8cm ぐらい、大体 170cm ぐらいの、例えば大人の人だったら 136cm ぐらい。新聞を開いてもう片面付けたぐらいの、片面 3 枚分ぐらいの距離ですね。それぐらいはすつとよけなきゃいけない。それも、私も動物なのでテリトリーがあります。「あっ、私のテリトリーに入ってきたな」と思う手前で避けなきゃいけない。それが人間の場合は、大体 4m ぐらい。ライオンはちなみに 2、3m です。なぜライオン使いは咬まれないかという、2、3m 離れたところでむちを使って操るから。人間もそう。4m ぐらいのところ「あっ、入ってきたぞ」と思ってにじり寄られる前に、すつと大体手を伸ばした長さぐらい、大体手を伸ばした長さぐらいは離れていくと、「あっ、この子はできるな。知ってるな」と思って、「この子は止めとこうかな」と思わせる効果もあります。ちょっと一歩よけるだけでも、そんな効果があるんですね。

そのためにも、どんな人が怪しいか知らないと駄目で、「はちみつじまん」という言葉で子どもたちに教えています。「はなしかけてくる」、「ちかづいてくる」、「みつめてくる」、「ついてくる」、「じっとまっている」、そういう人には、「ん？とちゅうい！」っていうことです。特に注意しなければならないのは、コミュニケーションを求めるようなこと。話しかけてくる、すごくしつこく話しかけてくる。それから視線を投げかけてくる。じっと見てくるっていうような言葉は、「この子は来れるかな。行けるかな」っていうふうを探ってくる。そういうものを例えば、話しかけてきたときに「いや、結構です」とか「お母さ

んに聞いてから行きます」とか「要りません」というふうに断れたり、あとは、じっと見られたときにさっと視線を切れるか。

この前、静岡である女の子が2週間に2回、性被害に遭いました。なぜかっていうと、「お兄ちゃんの目が怖かった」。へびににらまれたカエル状態になってしまって、目をそらすことができなかつたんですね。目をそらすのもとても勇気が要ることなんです。なので、こういうことを丁寧に発達段階に沿って教えていってあげないといけないわけなんです。危ない人っていうのは、突然飛び掛ってきたり、直進してきたり、凶器を持っている者。こういうものがあつたら、ためらわずに走り、ためらわずに叫ぶ、ためらわずに鳴らすっていうものが必要になってきます。

でも、とても気を付けなきゃいけないのは、先ほど申し上げたように、差別の目を作らない、それから人間不信な子どもにしないっていうことなんです。非常に難しいところなんです。実はこれが、発達段階に沿って教えていかなきゃいけない大事なポイントなんです。いきなり、例えば、幼稚園の子に危ない人、怪しい人を教えるのではなく、もっと前の段階、3歳ぐらいのときに、あなたの周りは誰でも信頼できる、誰でも信頼することができる、誰でも助けてくれる、人間っていうのは信じられるものなんだっていうのを徹底的に、特に親子関係の中で教えないといけない。それをなくして、いきなり怪しい人、危ない人なんかを教えると、差別意識の持った子どもに育ってしまうわけなんです。

もうちょっと詳しく、話していきましょう。子どもには「安全基礎体力」というものをつけていかなきゃいけないと私は思っています。「安全基礎体力」、後で説明しますが、生まれたときは全くないです。だんだんだんだん大きくなって15歳になるぐらいまでにこういった力がついて、自分だけではなく人のことも守れるようになってほしいと思うんですね。その始まりっていうのは、人を信頼する、愛する、自分も愛されてるんだと思うことからスタートしなければならない。だんだんだんだん挨拶ができるとか、危機を伝える、人のために何かをする、自立するっていうことにつながっていきます。もっと詳しく言うと、幼児の段階では、精一杯周りからの愛を受け入れ信じる事が出来るっていうこと。ここがしっかりできてないと、例えば非行少年の多くは、しっかりと親の愛を受けていた、受けたという感情がないまま育っています。それから、「しっかりと抱っこされた、僕が助けてと言ったときには助けてくれたっていうような経験がない子が多いんですね。それがなければ、加害者にもなってしまうし、被害者にもなりやすい。自分の命というのが大事だと思ってないから。でも、そういうものを経て、自助・共助・公助の段階へと育て上げていかないといけないんです。後ろから家族にぎゅっと抱きしめられたり、それから子ども自身がお母さんの後ろからぎゅっと抱きついたりというような経験があるかないかっていうことは、とてもその後の人生に左右するということなんです。

じゃあ、「安全基礎体力」ってどういうものかっていうと、この4つの力になります。「体力」、「危機への知恵・知識力」、「コミュニケーション力」、「大人力」、この4つの力と定義しています。ちなみにこれは、釜石の奇跡の子どもたちを見ていくとよく分かります。彼

らは、あそこでは誰も亡くなりませんでしたね。高知は津波教育がとても進んでるという
ようなことを最近勉強しました。それに当てはめてみましょう。まず、山の上まで走って
行く体力が、釜石の子どもたちがありました。そして、ここじゃ危ないっていう知恵も知識
もあった。「みんなここじゃ危ないからもっと上に行こうよ」と言って引っ張っていくコミ
ュニケーション力もあった。最後は、誰に言われたわけでもなく、自分たちで決定し責任
を取るというところまでの大人力っていうものが付いていました。つまり、体力、
危機への知恵・知識、コミュニケーション力、大人力っていうのが、バランス良くついて
たからこそ、津波から逃げることもできた。犯罪も一緒です。今走らなきゃ、走り切る、
それから、ここじゃ危ない、こういうときにはどうするっていう知恵、それから、怖いよ、
助けて、嫌ですと言えるコミュニケーション力、そして最後は、それは自分で決めるつ
ていう力っていうのが必要になってきます。これはいじめも非行も一緒、同じ力が必要とさ
れます。

簡単に言うと、自分で頑張る力をいかにつけるかっていうことです。自分だけでなく周
りの人のことも守れるか。やがては、日本だけじゃなくて世界の人のこと考えられるか
っていうところまで、高知の子どもたちを育てていくというのをやっていただきたいな
というふうに思っています。

例えばイギリスでは、この辺ちょっと足早に行きますが、0歳からこういうことをやっ
ています。そして、体験的にやるということをやっています。非行少年の教育なんかでも、
実際に捕まえて、裁判を受けて、罰を受けるところまで体験学習しています。教えてい
るのは地域の先生。地域の防犯ボランティアの方々が先生となって教えています。これなん
かも擬似体験する施設を地域で作らして、真ん中の黄色いシャツの方が地域の防犯ボラ
ンティアの先生です。この人が連れ回しを、こういう公園では汚くて連れ去り犯が多いか
ら気を付けるんだよと子どもに教えてるところです。それを聞いた子どもたち、絶対行か
ないって言うはずなんです、ここで仕掛けのおじさんがやってきて、「あっちにもっと面
白いことがあるよ」って言われて、行かないっていうはずがついて行っちゃうっていうこ
とが起きました。っていうふうに、ここで失敗をたくさんさせて、学ばせて定着させるつ
ていうようなことをしています。ほかにも、この施設は災害とかで交通事故とかも学べる
ような総合的な施設になっていて、実は日本には今までなかったんですが、今年の11月、
愛知県にできることになりました。是非、来れる方は来てみてください。防犯に特化した
安全体験施設というのができます。教えるのは、やはり愛知の防犯ボランティアの方々に
やってもらおうと思っています。私が監修します。静岡では、地域の人が、実際に体験施
設はまだまだお金がなくて作れないけれども、地域の中で体験教育をやろうということで、
これは実際に駆け込みの訓練をしたり、今日は時間がないんですが、犯罪者から逃げるに
は20mは最低逃げなきゃいけないというのが、私たちの研究から分かりました。20m走る。
それも体育館でやるのもいいんですけど、実際に道路で走るということ。これは実
際に防犯ボランティアの方々が、アブトレと称して学校に出向き教えてます。去年までで

何校だったかな、今年百何十校教えに行くことになっています。こんなふうに、皆さんと同じようなボランティアの方がトレーニングを積んで、座学と教育実習を積んで学校で教えるようになっています。ほかにも、建築士会の方とか商店街とか、いろんな人が協力して、これは科学館の中で、建築士会の人や商店街の人が一緒に防犯教室をしているところです。これは実際に商店街の人と一緒にあって、商店街の中で防犯ブザーを鳴らして、どこの商店街の人まで聞けたかなとか、大声を出したり、あと 20mダッシュも実際に商店街でやっています。実際駆け込んで伝えるというようなことも、街のみんなで協力してやっています。この静岡では、防犯だけじゃなくて防災も商店街などを使って、防犯ボランティア、防災ボランティア、それから建築士会、商店街みたいなものが一緒になって、体験学習をやっています。

ということで、今まで話してきましたが、もう時間になってしまいました。ここから先は、このテキストの中にたくさん出ています。歩く、すれちがう、引き返す、きっぱり断る、大声、防犯ブザー、駆け込む、ロケットダッシュ、噛みつく、ジタバタ、防犯だけでもこれだけの項目があります。これは例えば、運動会とか朝ラジオ体操のときとか、1項目だけでもいいので、少しずつ地域の方が教えていくというのはいかがでしょうか。こんなふうに。このときに歩くだけでも、例えば体の不自由そうな人が来たら譲るんだよとか、それから目の不自由な人がいたら譲るんだよとか、あと、「はちみつじまん」を教えるときなんかでは、例えば障害を持った子どもってというのは、一人でぶつぶつ言ったり、何か我慢ができなかったりすることもあるけれど、だからといって悪い人ではないんだよとか、いろんな要素を含めながら、安全防犯教室を通して教えていくことができます。

なので、これから、とても大事な教育なんですけど、学校ではとても時間がない、それから何をどう教えていいかわからないという現場の先生もたくさんいます。なので、地域の方が地域の子どもの大人にする、高知の子どもの大人にする、世界で羽ばたく子どもに、大人にするということを目指して、カリキュラムを例えば、幼・小・中で続けて作って、そのもとにもあるもの、もとになるものを私たちは作っていますので、欲しい方に差し上げます。1年生には1年生、6年生には6年生、中学2年生には2年生にという丁寧な学習を、地域の方が先生になってされてはいかがでしょう。

ということで、もう時間になってしまいましたので、私の話はこれでおしまいにしたいと思います。すいません。早口になってしまいました。

どうもありがとうございました。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

ありがとうございました。

正に体験型というような感じだったと思います。いろいろな隙間をついてくる犯罪者に対して、子どもたち、そしてそれを見守る大人たちが、それぞれの立場でノウハウを生かして隙間をなくしていく、そういうふうな意識づくり、環境づくりが大切だと感じました。

ただいまの講演内容につきまして、ご質問などありましたら、挙手をお願いいたします。
よろしいでしょうか。

それでは、以上で講演を終わります。非常に貴重なご講演をいただき、ありがとうございます
이었습니다。皆様、清永様に拍手をお願いします。

ありがとうございました。

それでは席を移動いたしますので、少々お待ちください。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

続きまして、『「高知家」安全安心まちづくり宣言』を行います。資料の13ページをごら
んください。

宣言文の読み上げは、田村副会長、よろしくをお願いします。

◎高知県安全安心まちづくり推進会議 田村副会長（高知県小中学校PTA連合会長）

ただいまご紹介いただきました、小中学校PTA連合会の田村と申します。

子ども・大人すべての皆様が安全で安心して暮らせるまちづくりを願ひまして、宣言文
を読み上げさせていただきます。

『「高知家」安全安心まちづくり宣言』

犯罪の被害に遭わずに安全で安心して暮らせる高知県の実現は、県民すべての願いです。

私たちの身近なところで起きる犯罪の被害から、自分や家族、地域を守るためには、県
民一人ひとりが防犯意識を高め、子どもへの声かけや高齢者の見守り活動など、できるこ
とから取り組んでいくことが必要です。

ここに私たちは「高知県は、ひとつの大家族やき。」との思いのもと、人と人とのつな
がりを大切にして、相互に助け合い・協力しあいながら、次のとおり安全安心まちづくりに
取り組むことを宣言します。

一つ。毎年度の事業計画に安全安心まちづくりを位置づけ、自らの活動として取り組ん
でいきます。

一つ。自らの活動を通じて、安全安心まちづくりの考え方が広く浸透するように努め、
県民によって支えられる運動としていきます。

一つ。各地域で行われる安全安心まちづくり活動に参加・協力し、事件・事故などの被
害防止につなげます。

平成27年2月26日

高知県安全安心まちづくり推進会議

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

ありがとうございました。

それでは、最後となりましたが、総会の閉会に当たりまして、高知県安全安心まちづく

り推進会議の國枝副会長から、『閉会のことば』をお願いします。

◎高知県安全安心まちづくり推進会議 國枝副会長（高知県警察本部長）

ただいまご紹介にあずかりました、高知県警察本部長の國枝でございます。閉会に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。本日は、あいにくの天候にもかかわらず、高知県安全安心まちづくり推進会議総会にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

ただいま、株式会社ステップ総合研究所の清永奈穂所長から、子どもの安全についてお話をいただきました。子どもを狙った痛ましい事件が多発している中、自らが危険を察知し回避することを学ぶことはとても重要なことでもあります。県警察といたしましても、子どもや女性が犯罪被害に遭わないように、地域、家庭、学校、その他様々な機関との連携を強めてまいりたいと考えております。

それから、山の手子ども守り隊の皆様からは、「地域に根差した、子どもの見守り活動の取組」について、活動事例を発表していただきました。清瀧寺参詣の折、私自身何気に通る過ぎた高岡第二小学校におきまして、このような熱心な取組が行われていたということで、本当に有り難いことと感じた次第でございます。

本日のご講演・ご発表、それぞれお集まりの皆様が今後活動を展開するに当たり、大変参考となるお話でございました。安全で安心して暮らせる高知県を作るため、本日のお話を生かしていきたいと思っております。

本総会におきましては、平成26年度の活動実績を総括するとともに、平成27年度に高知県安全安心まちづくり推進会議で取り組むべき重点テーマが4つ定められました。ご参加いただいている皆様におかれましては、それぞれのお立場で重点テーマに沿った一層の活動をお願いしたいと思います。

県警察といたしましても、本日ご指摘いただきました、全国レベルでの防犯情報の共有、それから少年非行に係る高知県下の関係者間の連携・情報共有、こういったことについても最大限の配慮を行いながら、高知県安全安心まちづくり推進会議の構成員の皆様と共に、安全で安心して暮らすことのできる高知県を目指した活動にしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりましたが、皆様のますますのご活躍を祈念し、閉会の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

◎司会（高知県警察本部生活安全部 生活安全企画課 大崎）

以上をもちまして、本日の総会を終了させていただきます。

皆様方には、長時間にわたりご参加いただきまして、誠にありがとうございました。お気を付けてお帰りください。

なお、会の冒頭にも申し上げましたが、お車でご来場の方は、駐車場料金の割引がござ

いますので、1 階のホテルカウンターにて駐車券をご提示していただきますよう、お願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。